石二小だより

第６８号　平成２９年３月９日（木）発行　文責：鈴木
【電話】0244-22-2724【ホームページ】http://www.minamisoma.gr.fks.ed.jp/?page_id=145
平成２８年度重点目標「考えをつたえ合おう」

同窓会の一員として

7日（火）には同窓会長の山田さん、PTA会長の遠藤さんが来校され、6年生の同窓会入会式を行いました。まず、山田さんから入会を歓迎するごあいさつをいただきました。その後で、6年生を代表して星到さんが、力強く誓いの言葉を発表しました。遠藤さんからはお祝いの言葉をいただき、最後に全員で校歌を歌いました。本校の同窓生は1万人を超えています。いよいよ6年生もその仲間入りです。

東日本大震災から６年

平成23年3月11日、あの日はとても寒い日で雪がちらついていました。巨大な地震と津波、そして原子力災害に見舞われたあの日から、まもなく6年が経過します。昨年12月にはJR常磐線が仙台まで再開通しましたが、南のいわき方面にはまだ電車で行き来することができません。市内では復興住宅が各地に完成して、入居されている方も増えてきました。交通量は相変わらず多く、朝晩には各地で渋滞が見られます。

皆さんの心の中には、今どんな思いがよぎりますか。「もう6年も過ぎた」のか、「まだ6年しか経っていない」と感じるのか、複雑な思いがあることでしょう。一人一人の置かれている状況が違うので、何がよいとか悪いとかは、誰にも判断できません。あの日のことがきっかけで、本来石神二小に通学するはずだった子どもたちも、避難先の学校で卒業や進級を迎えることもあるでしょう。ハード面で大きな爪痕を残したあの日のできごとは、私たちの心の中にも同様の爪痕を残したかもしれません。そんな中でも、子どもたちは毎日元気に登校しています。しかし、表面上は元気そうに見えても、内面では不安や心配事を抱えているかもしれません。6年経ったからもう大丈夫ではない人も少なくないはずです。これからも、みんなで温かく子どもたちの健やかな成長を見守っていきましょう。自分自身の心身もいたわりながら…。　≪裏面もご覧ください≫

休みの日に、何気なくインターネットで震災関連のサイトを見ていたら、こんな書き込みを見つけました。当時のことをいろいろと思い出して、様々な思いが頭の中を巡りました。

◆　豚汁の炊き出しが始まると、高校生くらいの男の子が真っ先に飛んでいった。勝手だなと思って見てたら、豚汁を足の不自由な老婆の所へ持って行って、「あったかいうちに食べてね。」と言い残すと、自分のをもらいに長い行列の後ろに並び直してた。

◆　バイト中に地震があって、ほぼ満席の状態からお客さんに外に避難してもらいました。食い逃げ半端ないだろうなと思っていましたが、ほとんどのお客さんが戻ってきて会計してくれました。ほんの少しの戻られなかったお客さんは、後日わざわざ足を運んでくださいました。

◆　東横線の車掌さんのアナウンス「大変なことになってますが、ここが頑張りどころです。みんなで力を合わせて乗り切りましょう。」たぶんマニュアル外だと思う。

◆　募金箱の前にて幼稚園くらいの男の子と母親の会話。母「貯めてたのに本当にいいの？」　子「3DS我慢する。これで地震の人の家建てる。」と言い、お年玉袋から5,000円を寄付。母「偉いね。地震の人、これで寒くなくなるね。」男の子思わず号泣。後ろにいた私、大号泣。

◆　全然眠っていないであろう自衛隊員の旦那に、「大丈夫？無理しないで。」とメールしたら、「自衛隊なめんなよ。今無理しないで、いつ無理するんだ？言葉に気を付けろ。」との返事が。彼らはタフだ。肉体も精神も。